

群 教 七	G02 - 03
	平26.254集
	社会 - 中

歴史的事象について多面的・多角的に 考察する力を高める指導の工夫

— 政策の評価書を活用した意見交流を通して —

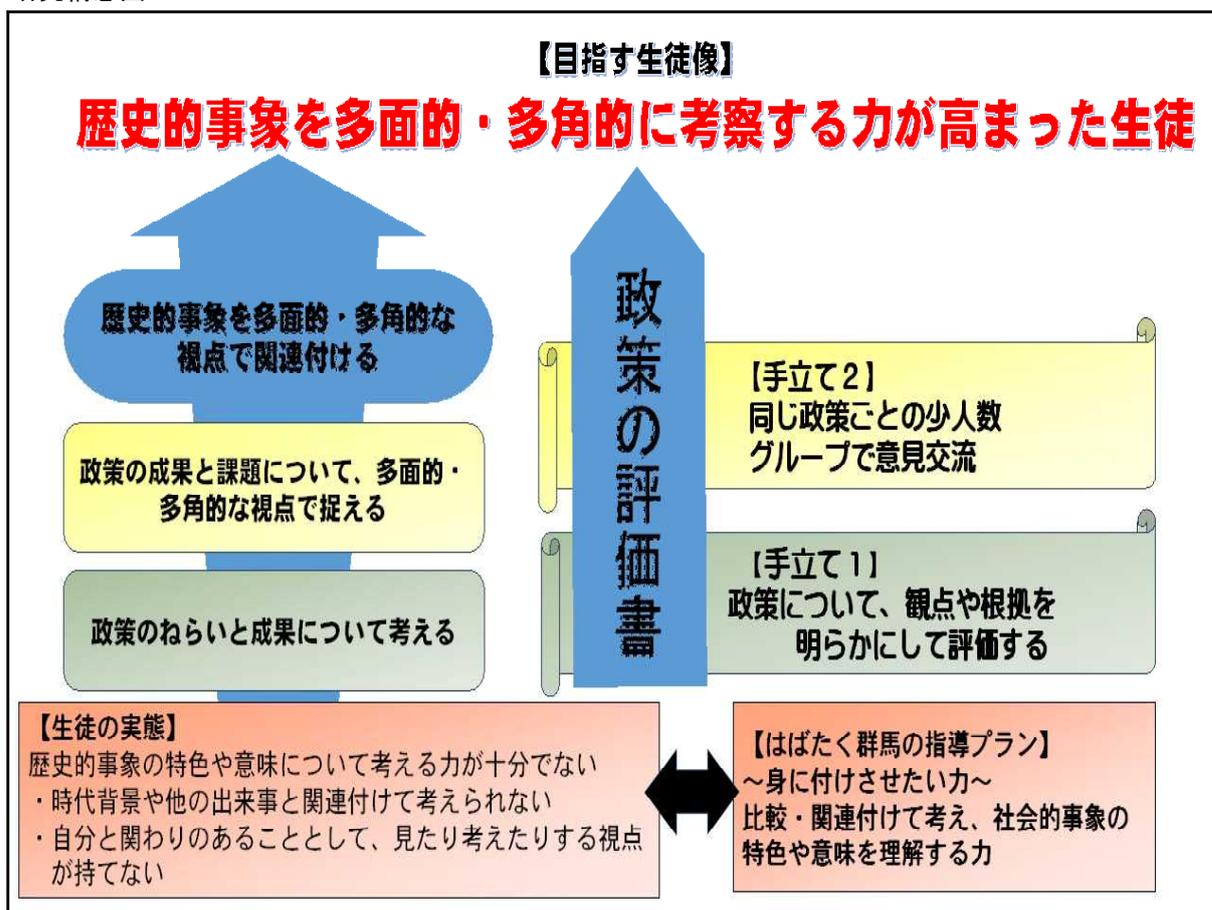
特別研修員 杉藤 功

I 研究テーマ設定の理由

中学校学習指導要領の解説・社会編3内容の取り扱い(1)イには、「歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を通して、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図ること」と示されている。また、はばたく群馬の指導プランでは、歴史学習の身に付けさせたい資質・能力の一つに「時代や文化の特色を考え、歴史の大きな流れを理解すること」を挙げている。本学級の生徒は、歴史的事象を多面的・多角的に考えることに課題が見られる。そこで、課題を追究する過程において、政策を評価したり、その評価について意見交流をしたりすることで、その時代における政策の意義について、経済面や外交面等の視点や様々な立場からの視点を関連付けながら考えることで、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力が高まると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

実践1では、政策を多面的・多角的に考えるために次の三つの手立てを用いた。

研究の手立て

- ①政策について、個人で明確な観点や具体的な根拠を示して評価し、評価書に記入する。
- ②少人数グループで①の評価書を発表し合い、政策の成果と課題について、意見交流して考える。
- ③②の意見交流をもとに、政策の意義や時代の特色についてまとめる。

まず、教師が作成した評価書を参考にして、江戸幕府の諸政策について、各自で教科書や資料集で調べて評価書を書いた。例示として既習内容である織田信長の「楽市・楽座」や豊臣秀吉の「刀狩」「太閤検地」などの政策について作成した評価書を文型とともにいくつか示した。

次に、教師が、事前に編制しておいた政策ごとのグループで、評価書を発表し合っ、感想を伝え合い、その政策の成果と課題についてまとめて全体で発表した。「幕藩体制」「参勤交代」「武家諸法度」「身分制度」「五人組」「出島」「朱印船貿易」「踏み絵」「禁教令」の9班に編制した。グループで政策の成果と課題を挙げる際、その政策が人々の負担になったことなどのマイナス面にややとられる傾向があった。

最後に、「江戸幕府が約260年続いたのはなぜか」という課題について考えて短文でまとめた。ほとんどの生徒が、具体的な政策を根拠に挙げることはできたが、複数の要因を関連付けて考えることができた生徒は少なかった。

そこで、実践2では、新たな手立てに工夫を追加した。

研究の手立て

- ①教師が政策の評価書を例示する際、より多くの観点や表現の仕方を示した。
- ②意見交流のまとめに、各政策を表に分類・整理することで、視覚的に多面的・多角的に捉えられるようにした。
- ③政策については、問題点よりも意義や成果により目を向けさせるような学習課題を設定した。

以上のような新たな手立てを追加したことにより、政策を評価する自分の考えが明確化し、その考えが意見交流に生かされたことで評価の観点や内容が多様化した。また、各政策の意義について、より多面的・多角的な視点を持って、総合的に考えられるようになった。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 各自で明確な観点や具体的な根拠を示して、政策を評価する学習や評価書をもとに少人数グループで、意見交流する学習を通して、様々な見方や考え方があることを意識して、政策の成果と課題を考えることができるようになった。
- 他の政策や時代背景と関連付けて考えるような学習課題を設定したり、政策を分類する活動を取り入れたりしたことで、政策の意義や成果を多面的・多角的に考えられるようになった。

2 課題

- 政策の評価書を書く際、参考にした資料は、教科書や資料集が中心であったので、類似した記述内容がやや多く見られた。
- 意見交流は、グループのメンバー構成や選んだ政策によって、コミュニケーションの質と量に差が見られ、感想や意見の伝達に終始してしまった生徒も数名いた。

3 提言

- 歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を高めるためには、政策のねらいや成果、時代背景について、基礎的な知識や理解の定着を図った上で、意見交流などの学び合いの活動を継続的に反復しながら、思考力を高めるためのコミュニケーションスキルを身に付けていく必要がある。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 「江戸幕府の成立と鎖国」(第2学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、江戸時代は幕府の独裁政権により、大名同士の争いや下剋上がなくなったことで、泰平な世の中が続き、庶民が財力をつけた時期であったという特色を理解することが目標である。本時は、全5時間計画の第4時にあたり、政策の成果や課題を考えることを手がかりに、当時の国内外の情勢や時代背景を捉えることがねらいとなる。歴史的事象について、多面的・多角的に考察する力を高めるために、単元の課題を追究する過程に、政策の評価書を活用した意見交流の学習を取り入れ、授業実践を行った。その概要は以下のとおりである。

3 授業の実際

(1) 歴史的な政策のねらいや成果を考える学習

第3時で教師の事例を参考にして、江戸幕府の政策の中から一つを選択し、教科書や資料集で調べて評価書を書いて自分の考えを持てた(図1、2)。教師が示した例示を参考にスムーズに考えることができたが、記述内容が伝わりにくいものがあったので、教師の助言によって修正する生徒もいた。生徒Aの評価書図1のように、自分なりに観点や根拠は持っているが、政策にどのような効果があり、どう評価したのかという考えが示されていない生徒が少なかった。また、生徒Bの評価書のように、政策が何にどのような影響を与えたのかという着目点にそって考えを持てた生徒も数名いた(図2)。

<p>【生徒の記述の例】</p> <p>江戸幕府の政策評価書 わたしは、 禁教令がキリスト教徒に与えた影響に着目して考えました。</p> <p>秀忠は、禁教令を強化し、信仰を捨てない多くのキリスト教徒を処刑しました。キリスト教徒を発見するために、絵踏みを行いました。これによって、宗門改めによって、仏教の信者であることを寺に証明させました。葬式も寺で行われるようになりました。</p> <p>よって、江戸幕府の禁教令は効果があったと思います。</p> <p>〈評価の観点〉 何に着目したか</p> <p>〈評価の根拠〉 政策の内容や成果</p> <p>〈政策の評価〉 …に効果的であった …に成果があった …に失敗であった</p>	<p>【生徒の記述の例】</p> <p>江戸幕府の政策評価書 わたしは、 禁教令がキリスト教徒に与えた影響に着目して考えました。</p> <p>キリスト教の考えは、神を信じ、神を信仰すること、その考えは、大きく幕府の考えに反していたからキリスト教徒を処刑した。長崎では役人の前で聖母マリアの像を踏む絵踏みが行われた。これによって、キリスト教徒がいなくなった。</p> <p>よって、江戸幕府の禁教令はこのことがきっかけで、日本独自の文化がつけられたので、効果があったと思います。</p>
--	--

図1 生徒Aが作成した評価書

図2 生徒Bが作成した評価書

(2) 政策の成果と課題について、多面的・多角的に捉える学習

第4時で、教師が政策ごとに編制した図3のような班により、次項図4の手順で意見交流を行う(次項図5)。班で課題と成果をまとめ、代表者が全体で発表した(次項図6)。

班編制(9班)		
・武家諸法度(4名)	・参勤交代(4名)	・藩(3名)
・身分制度(2名)	・五人組(3名)	・禁教令(3名)
・踏み絵(3名)	・朱印船貿易(4名)	・出島(3名)

図3 生徒が活動した班編制

班ごとに成果や課題を考える際には、幕府の立場よりも、その政策によって負担を強いられた人々の立場などの視点にとらわれすぎたため、政策の意義を時代背景と関連付けて捉えられていない生徒がいた。



図5 グループで意見交流をしている様子

1. 一人ずつ自分の評価を発表する。(時計回り)
次の方は、前の人の発表について、感想を言う。
「～に着目した点は、……と思います」
「～と評価したのは、……だからということが分かりました」
「～という評価には、自分は、……と思います」
2. 政策の成果と課題について、考えまとめてホワイトボードに書く。

図4 意見交流の手順

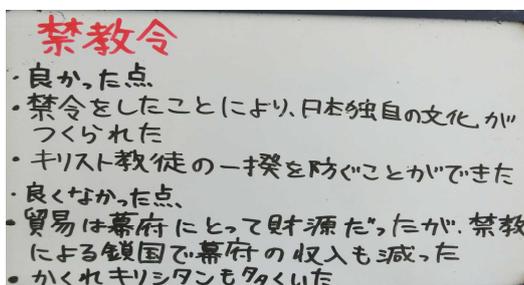


図6 グループでまとめた政策の成果と課題

(3) 政策の意義について、多面的・多角的な視点で関連付けてまとめる学習

第5時では、各政策の意義を関連付けて考えられるように、「江戸幕府が警戒したり、未然に防ごうとしたりしたこと」を一人一人が図7のようにワークシートに整理してから、「江戸幕府が長期に政権を保った理由」を考え、短文にまとめた(図8)。記述には、参勤交代や五人組などの政策名を挙げて、多角的な視点から幕府が大名や百姓に経済力や武力を持たせないようにした点を根拠として考えたものも多くあった。しかし、政治や経済、外交的な側面を関連付けて考えた生徒は少なかった。

学習課題「江戸幕府が警戒したり、未然に防ごうとしたことは何だろう」

- ・キリスト教徒がキリスト教を広めること
- ・農民が一揆を起こすこと
- ・朝廷が権力をもつこと
- ・大名が経済力をもつこと
- ・外国人が日本を支配すること

図7 生徒の記述の例

学習課題「江戸幕府が約260年続いたのはなぜだろう」

- ・キリスト教が広まらないように、信者を処罰したり、出島で貿易をおこなった。大名たちが財力をたくわえないように参勤交代などの法律をつくったから。農民の一揆を防ぐために五人組などのきまりをつくった。
- ・身分制度や参勤交代をおこない、農民の一揆をなくし、下剋上を起こさせないようにし、大名に力をもたせなかった。長崎で貿易をすることで、たくさんの物を輸入したから長く続いた。
- ・いろいろな法律を身分ごとに定めて、一揆や反乱を防ぐことで、国が平和になった。また、外国人に支配されないようにしたことで、外国との争いが起きなかった。

図8 生徒の記述の例

4 考察

(1) 政策の評価書の活用や意見交流について

- 政策の評価書を書くことは初めてであったが、教師が作成した評価書を参考にして、観点や具体的な根拠を示して考えることができた。
- 評価書を活用して意見交流をしたことで、自分の意見を持ってスムーズに発表することができ、グループごとに、様々な視点から各政策の成果と課題を挙げることができた。
- グループによって、意見交流の深まりや交流する時間に差が見られた。

(2) 政策を多面的・多角的に考察する力の向上について

- 幕府が長期に続いた理由について、多くの生徒が意見交流で出された内容を生かし、具体的な政策を2～3個挙げて短文でまとめることができた。しかし、羅列的に政策をつなげた内容が多く、各政策を比較・関連付けて総合的に考えた内容でなかった。また、個人で政策を評価したり、グループで政策の成果と課題をまとめたりする過程では、その時代のある人々の立場だけから見た一方的で偏った見方であったり、政策の問題点などのマイナス面にややとらわれすぎたりして、他の政策や時代背景と比較・関連付けて考察できていない生徒も見られた。

実践 2

1 単元名 明治維新（第2学年・2学期）

2 本単元及び本時について

本単元では、明治時代に、武士が支配してきた身分社会から近代国家への基盤が築かれた過程を理解することが目的である。本時は全8時間計画の第6時に当たり、政府が欧米列強の外圧による不平等条約を改正するために、「中央集権体制」「富国強兵」「欧米化」の改革を立て続けに断行したことを手がかりに、政府の諸政策を政治や経済、外交的な側面から関連付けたり、士族や庶民の立場から多角的な視点で捉えたりする力を高める。単元の課題を追究する過程に、政策の評価書を活用した意見交流の学習を取り入れ、授業実践を行った。概要は以下のとおりである。

3 授業の実際

(1) 歴史的な政策のねらいや成果を考える学習

第5時では、評価の仕方に幅を持たせた教師の事例を参考にして、「学制」「徴兵令」「廃藩置県」「岩倉使節団」「殖産興業」の中から一つを選択し、政策の評価書をまとめた。評価書をまとめる際、自分の観点が評価内容に反映しやすくなるように「～のために必要であった」「～に役立った」「もっと～した方がよかった」という表現を新たに取り入れた。生徒Aの評価書図9のように、実践1の時よりも、政策が何に対してどのような影響を与えたのかという観点と根拠にそった考えが示せるようになり、自分の観点が評価に生かされた記述内容が多くなった。また、生徒Bの評価書図10のように、多角的な視点で政策の改善点について考えた生徒も増えた。

【生徒の記述の例】
明治政府の政策評価書
わたしは、
地租改正 が **国民** に与えた影響
に着目して考えました。

政府の収入減を防ぐため、地価が高めに定められました。そのため地価の3%でも、農民にとって負担は江戸時代とあまり変わりませんでした。政府は地租をきびしく取り立てたため、歳入は安定した。

よって、**地租改正**は
政府にとっては全国統一の税になり年間の収入は安定してよかったが、各地の人々によっては、税の負担はほとんど変わらず、もっと国民の負担を考えた政策にすればよかった。
と思います。

図9 生徒Aが作成した評価書

【生徒の記述の例】
明治政府の政策評価書
わたしは、
徴兵令 が **国民** に与えた影響
に着目して考えました。

満20歳をこえた男子は士族・平民にかかわらず兵役を行うことになりました。しかし、多くの免除規定があり、実際に兵役についたのは、平民の二男、三男が多かった。

よって、**徴兵令**は
出したからといって、強兵になるとは思わないし、多くの免除規定があったため、もう少し規定を少なくすればよかった。例えば身長のことや兄弟が兵役についた者などをなくせばよかった。
と思います。

図10 生徒Bが作成した評価書

(2) 政策の成果と課題について、多面的・多角的に捉える学習

第6時では、教師が政策ごとに編制した図11のグループで意見交流を行い、課題と成果をまとめ、全体で発表した(図12)。グループごとの意見交流では、成果を、課題よりも多く挙げるように意図的に助言を加えたことにより政策の意義やその後の日本に与えた影響などの視点に目を向けて、プ

- 班編制 (5班)
- ・ 学制 (7名)
 - ・ 徴兵令 (6名)
 - ・ 地租改正 (6名)
 - ・ 岩倉使節団 (5名)
 - ・ 殖産興業 (6名)

図11 班編制

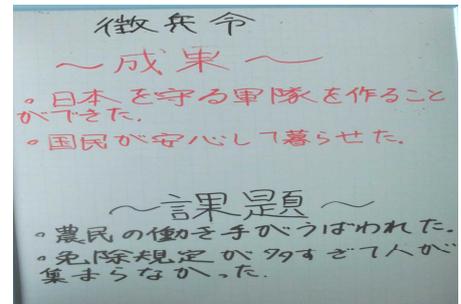


図12 政策の課題と成果

ラス思考で政策を評価する意識が強くなった。また、政策を分類する活動を取り入れたことは、明治政府が、様々な側面や視点から政策を行ったことを視覚的に捉えることに役立った(次項図13、14)。



図13 グループの代表者が発表している様子

明治政府の政策を分類してみよう			
	士族	平民	欧米諸国
	武士	百姓・商人・職人	
政治的な政策	学 制 徴兵令		
経済的な政策	地租改正	殖産興業	
外交的な政策			岩倉使節団

図14 政策の分類表

(3) 政策の意義について、多面的・多角的な側面と関連付けてまとめる学習

グループ活動の後、五つの政策を比較・関連付けて考えられるように、「日本の近代化のために一番役立ったと考える政策」を選択させ、その理由を書いた（図15）。記述には、政治や経済、外交、文化的な側面を関連付けたり、ある人々の立場から成果と課題を比較したりして、多面的・多角的に考えた内容も多かった。

学習課題「自分が一番重要だと思うについて、その理由を書こう」（一部抜粋）

学制

- ・建設費や授業料は、地元の人たちが負担することになったけど、日本人の学力が上がり、よいことがあった。
- ・一般的な読み・書き・計算ができなければ、地租改正の税の計算ができなかった。
- ・日本を近代化させるには、江戸時代の古い考え方を新しくしなければならない。
- ・義務教育が定められなかったら、就学率が上がらずに、政治的にも経済的にも問題になった。

地租改正

- ・地租改正によって、財政が安定してきて、近代的な技術を取り入れられた。

殖産興業

- ・近代的な産業を育てることで、交通や通信が発展し、物資の流通が活発になった。
- ・官営模範工場をつくり、技術の開発や普及を図った。万国博覧会に参加して、優れた技術を紹介し、欧米では、日本に対する関心が急速に高まった。日本の技術が世界に広まった。

岩倉使節団

- ・不平等条約を改正することはできなかったけれど、今後の日本に必要な経済の発展に大きく役立つことができたから。法整備などを整えていった。

図15 生徒の記述の例

4 考察

(1) 政策の評価書の活用や意見交流について

- 政策の評価書を書く活動では、前回の実践で、政策が「成功であったか」「失敗であったか」の二極化の判断や表現の仕方にやや戸惑う姿が見られたが、評価の表現に幅を持たせて、多くの例示を示したことで、教科書などの文章を引用するだけでなく、「もっと～すればよかった」等、自分の言葉で考えを持てる生徒が多くなった。
- 意見交流では、評価書を活用したことで、全員が意見を持って、発言したり、多面的・多角的な視点を出し合って、各政策の成果と課題を考えたりすることができた。

(2) 政策を多面的・多角的に考察する力の向上について

- 政策を分類する活動は、各政策を多面的・多角的に捉えることに役立った。
- 前回の実践では、政策を一方向的で偏った視点や問題点にとらわれすぎて、政策の意義を他の政策や時代背景と比較・関連付けて考察できていない個人やグループの意見もあった。しかし、問題点よりも成果を数多く挙げさせたり、関連付けて考えるような学習課題を設定したりしたことで、多面的・多角的に考察できる生徒が多くなった。